

2024年度 須磨学園夙川高等学校入学試験

学力検査問題

国語

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼^はり、受験番号を記入しなさい。

- すべての問題を解答すること。
- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

学校法人 須磨学園 夙川高等学校



- 【一】 次の「資料1」を読んで、後の設問に答えなさい。また、
- 【図1】は給食事業者数の倒産件数の推移を示しており、【図2】は給食費負担とそれぞれのコストについて表したグラフである。

【資料1】

給食事業者の倒産が目立ってきた。2023年に発生した、学校給食や企業向け給食、学生・社員食堂の運営受託などを含む「給食」事業者の倒産は10月までに17件発生した。

(中略)

昨年以降、月2000品目を超える食品値上げに加え、調理スタッフなど人件費や光熱費などあらゆる運営コストが高騰し、小中学校を含む給食現場の経営を襲った。2022年度の最終利益が判明した給食事業者374社のうち6割超が赤字や減益となったほか、1割超の企業では3年連続で赤字となるなど厳しい経営環境が露呈した。

また、回答が得られた20社の給食事業者のうち15%が、光熱費などのコスト上昇分を「全く価格転嫁できていない」と回答した。

学校給食は最安値で入札した業者と契約する一般入札の採用が多く、低価格競争が常態化している。そのため、人件費や食料費を事前に高く見積もることが難しく、契約上の問題や保護者の抵抗から値上げも難しい。

中学校でも給食負担が1食200円前後と「安い給食」を維持するあまり、急激な物価高を前に市場Aを余儀なくされる中小給食事業者が増えている。

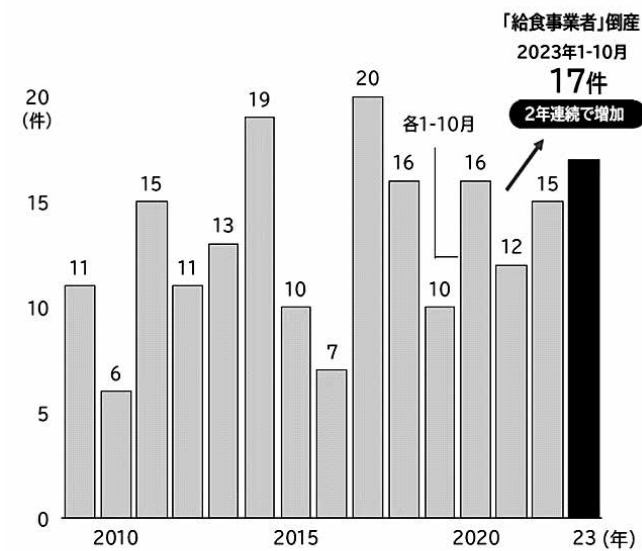
足元では、価格以外の面も考慮して給食業者を選定するプロポーザル方式の入札制度を検討する動きや、補助金投入でコスト高を補填する自治体も出てきた。

一度ストップしてしまえば、子供たちのみならず社会に広く影響が出る食のインフラ維持のために、「安くて当然」の低価格競争から、利益が出せる弾力的な価格の設定といった制度改革が必要となっている。

- 注1 プロポーザル方式の入札：不特定多数の企業の中から定められたテーマの企画書・提案書などの提出を求め、最も適した提案をした企業を契約の相手とする方式
- 注2 弾力的な：ある程度の融通を利かせる様子

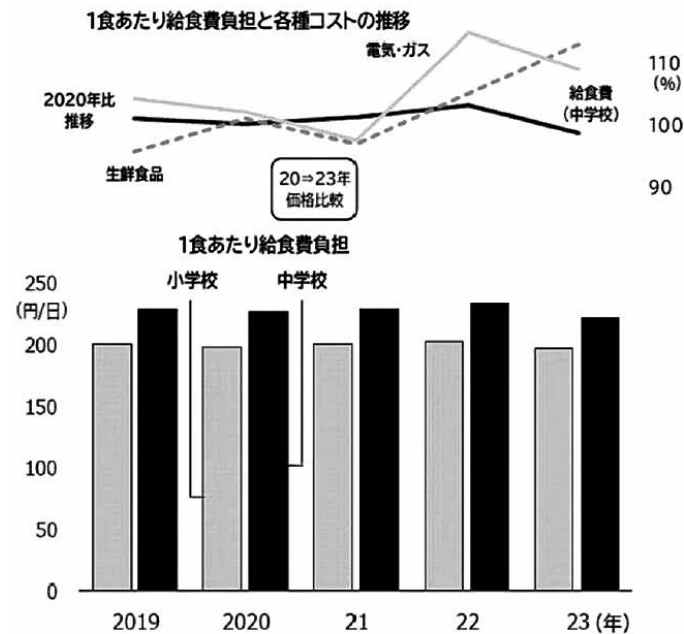
【図1】

「給食事業者」の倒産件数推移



【注】「給食事業」は、(1) 学校や企業、官公庁などで従業員・顧客向けの「食堂運営」(2) 保育・介護施設など向けの「給食弁当配送」のいずれかを行っていた事業者

【図2】



【注】帝国データバンク推計。各4月時点の数値。給食費は主要都市平均・月20日換算
【出典】総務省「小売物価統計」「2020年基準消費者物価指数」

一 の設問

問一 空欄 A に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 参入
- 2 退出
- 3 閉鎖
- 4 開放

問二 ——— 線部アから、2022年度の最終利益が判明した給食事業者374社について、どのようなことがいえるか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 これらの給食事業者のうち、半数は黒字あるいは増益となっている。
- 2 これらの給食事業者のうち、3年連続で赤字を出しているのは20社を下回っている。
- 3 これらの給食事業者は厳しい経営環境にあるが、その事業者総数は増加傾向にある。
- 4 これらの給食事業者のうち、200社以上が赤字や減益となっている。

問三 ——— 線部イについての説明として、適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 給食の採用の際には、最も安い価格に設定した事業者が選ばれているが多いため、価格を上げにくくなっている。
- 2 給食事業者の入札の際に、価格だけでなく、提案や企画内容も含めて判断する方法を採るところも増えてきている。
- 3 給食の価格は安くなってはならないと考えている学校は多く、給食事業者間の価格競争が生じている。
- 4 上昇したコストによる損失を抑えるために、補助金を出して補っている自治体、企業や学校もある。

問四 ——— 線部ウの「インフラ」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 生活や産業活動の基盤となっている施設
- 2 社会基盤を支えるために不可欠な仕事に従事する労働者
- 3 生活を維持していくうえで必要な原材料等の価格上昇
- 4 生活の基礎となっている持続可能な食習慣

問五 【図1】からどのようなことがいえるか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 2010年以降で、最も倒産件数が多い年は、2023年である。
- 2 2010年以降で、2年連続で倒産件数が増加している期間は、2021年から2023年の期間が2回目である。
- 3 2010年以降の倒産件数を平均すると15件を上回っている。
- 4 2020年においては、給食事業者数は450社を超えていた。

問六 【図2】と【資料1】からどのようなことがいえるか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 2019年以降、1食当たりの給食費負担が、小学校よりも中学校の方が高いのは、給食が「安くて当然」という声が中学校の方が大きいからである。
- 2 給食のコスト上昇の一因に、光熱費の上昇が挙げられるが、2019年以降、電気やガスのコストは毎年増加し続ける一方である。
- 3 給食のコスト上昇の一因に、食品価格の値上げが挙げられるが、2023年では、生鮮食品のコストが電気やガスのコストを上回っている。
- 4 2019年以降、小学校、中学校の一食当たりの給食費負担がほぼ横ばいであり、給食事業の継続のために、利益を生み出せる価格設定ができるように仕組みを変える必要がある。
- 5 調理スタッフの人件費の高騰も、給食コストの上昇に影響しており、人員整理を行うことで、上昇を抑えようとする事業者も少なからず存在した。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ことばの意味を学ぶということは、一つひとつの単語が指す対象の一つを知るだけでは不十分である。ある単語をきちんと使うためには、その単語が指し示す意味の範囲を知らなければならぬいからである。しかし、単語の意味の指し示す範囲は、一つの単語それ自体では決まらず、それぞれの単語の境界はその領域に属する他の単語との関係によって決まる。

例えば「アオ」という色の名前の範囲は、「アオ」と隣り合う色である「ムラサキ」や「ミズイロ」「ミドリ」との境界で決まる。日本語の「着る」という動詞の意味を理解し、慣習に則して使うためには、「着る」「履く」「かぶる」「つける」などの違いがわからなければならないはずである。

つまり、語彙は膨大な数の単語からなるシステムなのである。システムとしての語彙を身につけるためには、単語単体の意味を学ぶだけでは不十分である。単語同士の関係を学び、システムをつくっていく必要がある。その中で、似ている単語同士がどう違っていて、その二つの単語の境界がどこに引けるかを知ることとはとくに大事である。子どもはどのように単語同士の関係を学び、システムを構築しているのだろうか。

大人でも日常生活で自分の知らない新しい語に触れる機会がしばしばある。例えば、目の前にネコがいるときに、あなたの友人が「あ、カヒグがいるよ」と言ったとしよう。あなたはいぶかしく思い、「目の前にいるのは自分の知る限り、どう見てもネコだ。なのに、なぜ友人は「カヒグ」なんて呼ぶのだろうか？」と考えるだろう。そして「このネコは飼い主に「カヒグ」という名前を付けられたネコなのだろうか？」とか、「ネコの中でも「カヒグ」という種のネコなのだろうか？」、あるいは「まさか自分の知らない新種の動物なのだろうか？」などのように考えるのではないか。

つまり、あなたは自分が知っている「ネコ」という概念と対比しながら、新しい「カヒグ」という語の意味を考えるだろう。これは大人が、ことばについての大事な性質、つまり、一つの単語は別の単語と区別される意味を持つ、ということを知っているからだ。

ことば同士の関係にはどのようなものがあるか？まず「対比の関係」がある。「ネコ」と「ウサギ」、あるいは「リング」と「バナナ」は、互に対比的な関係にある。「ネコ」の^{注1}カテゴリーに入るモノは「ウサギ」ではないし、「リング」と呼ばれるモノは「バナナ」ではありえない。

それに対して「動物」や「ペット」は、「ネコ」も「ウサギ」も「イヌ」も含む、より包括的なカテゴリーである。それに対して「アメリカンショートヘア」や「チワワ」はそれぞれ「ネコ」「イヌ」のカテゴリーに含まれる特定の種類のネコ、イヌを指す。

子どもが今まで聞いたことがない、新しいことばを聞いたとき、そのことばと結び付けられる対象はいつも、いままでに見たことがない、未知のモノだとは限らない。「バナナ」を指しているのに「果物」と言われることもある。目の前にあるのは「リング」なのに「フジ」ということばを聞くこともある。つまり、子どもは「バナナ」と「果物」がどのような関係なのか、「リング」

と「フジ」がどのような関係にあるのかも見極めなければならぬのである。

子どもはここでもあれこれ迷わない。二歳くらいになると子どもは、二つの違うことばがまったく同じ意味を持つことはないという、語彙の一般的な性質に気づくようになる。これも語彙についての^{注2}スキーマである。

知らないモノに対して知らない単語を聞くと、子どもたちはそれを普通名詞だと考えて、それと形が似た他のモノに対してもそのことばを使う。しかし、例えば「ペンギン」のように、すでに知っている動物をターゲットにして、「これはヘクというのよ」と知らない名前を教えられると、子どもは、「ヘク」とはターゲットの「ペンギン」に与えられた特定の名前、すなわち固有名詞だと考える。つまり、二歳くらいの子どもは、「ヘク」は「ペンギン」とは違う意味のことばだと考えるのである。

それだけでなく子どもは、動物は固有の名前を持つが、人工物は固有の名前を持たないと知っている。ターゲットを、すでに名前を知っている人工物、例えば「コップ」に替えて、「これはヘクというのよ」と教えてみる。^エすると今度は、「ヘク」を固有名詞だとは考えずに、「紙コップ」のように、一般的な「コップ」よりも狭い範囲の意味のことばとして「ヘク」を解釈する。二歳くらいになるとすでに子どもは、「ペンギン」や「ネコ」のような動物には「ポチ」や「タロー」のような固有名詞の名前がつくことを知っている一方で、「コップ」や「ボール」のような人工物には「ポチ」や「タロー」といった固有名詞はつかないと知っていて、その知識をはじめて聞く単語の意味を推測する時に使うのである。

子どもの推論した意味がいつも正しいとは限らない。例えば、「クジラ」ということばを知っていて「イルカ」ということばを知らない子どもがいるとする。この子どもがイルカを「クジラ」と呼ぶことは十分考えられる。実際、そのような例は^オ枚挙にいとまがない。例えば、一歳台の子どもが、ことばを話しはじめたとき、イヌを「ワンワン」と呼ぶだけではなく、ネコもウシもライオンも「ワンワン」と呼ぶことは頻繁に見られる。

名前を知っている（と子どもが思っている）モノに新しい名前をつけたとき、その名前がもともとの名前のモノの特定の種類を指す場合もあれば（チワワでもあり、イヌでもある）、それと対比の関係にある（イルカであり、クジラではない）場合もある。

子どもはこの二つの場合を区別して、新しいことばとすでに知っていることばとの関係を考えなければならない。そして、実際、子どもは新しいことばを聞くと、そのことばの意味を考えるだけでなく、そのことばと関係する、すでに知っていることばの意味もいっしょに考える。また、必要があれば、すでに「知っていた」ことばの意味を修正し、^{注3}アップデートもする。

（今井むつみ『学びとは何か——〈探究人〉になるために』による）

注1 カテゴリー…同じ性質のものが所属する部類、領域。

注2 スキーマ…日常の中で、直接説明されないことの意味を自分で補いながら理解する常識的な知識のこと。

注3 アップデート…データを新しい内容に変えること。更新。

二の設問

問一 「日本語の『着る』という動詞の意味を理解し、慣習に則して使うためには、『着る』『履く』『かぶる』『つける』などの違いがわからなければならない」（――線部ア）とあるが、これはどのようなことを述べようとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 正しい語彙システムをつくり運用するには、単語を習うたびにそれとよく似た他の単語との意味の違いがどこにあるのかという単語同士の関係を学びながら、膨大な数の単語を覚えなければならないということ。
- 2 単語の意味の範囲を理解し正しく用いるには、その単語が指す一つの対象を正確に把握し、単語と対象がどのように結び付いているかという対応関係を学び、語彙のシステムを構築しなければならぬということ。
- 3 単語の意味の範囲を理解し正しく用いるには、それに似た他の単語と比べ、どこが意味の区別としての境界となるかという単語同士の関係を学び、語彙のシステムを構築しなければならないということ。
- 4 単語の意味の範囲を正しく学ぶには、それに似た単語との意味の区別を日常生活の経験を通して理解し、単語同士の関係を正確に把握するために、語彙のシステムが機能しなければならないということ。

問二 「目の前にネコがいるときに、あなたの友人が『あ、カヒグがいるよ』と言ったでしょう」（――線部イ）とあるが、筆者はこのことによつてどのようなことを述べようとしているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人は日常生活の中で未知のことばがすでに知っている対象に用いられた場合、違う単語は違う意味を持つという予備知識があつても、人によつてことばの使い方が異なることをいぶかしく思い、悩んでしまうということ。
- 2 人はある対象に対して未知のことばが用いられた場合、その対象に似たすでに知っていることばの概念と比較し、どこに違いがあるかをそのつど過去の自分の経験を通して考えながら、未知のことばの意味を推測するということ。
- 3 人は未知のことばがすでに知っている対象に用いられた場合、違う単語は違う意味を持つという予備知識によつて、同じ対象に違う意味を持つ複数のことばが使われることを想定し、いろいろな場面を想像するということ。
- 4 人はある対象に対して未知のことばが用いられた場合、違う単語は違う意味を持つという予備知識によつて、すでに知っていることばの概念と比較しどこに違いがあるかを考えながら、未知のことばの意味を推測するということ。

問三 「子どもは『バナナ』と『果物』がどのような関係なのか、『リンゴ』と『フジ』がどのような関係にあるのかも見極めなければならない」（――線部ウ）とあるが、筆者はこれを通してどのようなことを述べようとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 語彙のシステムをつくる単語同士の関係には、単語の意味の分類の仕方が互いに対比的な関係にあるものだけでなく、ある単語が他の単語の意味の分類の仕方に含まれる包括的な関係もあるということ。
- 2 異なることばは互いに同じ意味を持たないという対比的な関係だけでなく、ある単語が他の単語の意味と重複する類似的な関係もあり、そうした単語同士の関係によつて語彙のシステムが成立するということ。
- 3 ある単語がつくる他の単語との関係は、単語の意味の分類の仕方が互いに異なる対比的な関係であると同時に、その単語が他の単語の意味の分類の仕方に含まれる包括的な関係でもあるということ。
- 4 語彙のシステムをつくるには、単語同士の関係として、単語が指す対象の形状や種類が似ているという類似的な関係と、ある単語が他の単語の意味に含まれる包括的な関係の二つが不可欠であるということ。

問四 「すると今度は、『ヘク』を固有名詞だとは考えずに、『紙コップ』のように、一般的な『コップ』よりも狭い範囲の意味のことばとして『ヘク』を解釈する」（――線部エ）とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 子どもは、人工物を与えられた場合、固有の名前を持つのは動物だけで人工物には固有名詞としての名前がつくことはないという理解したうえで、一般的な人工物の名前に加えて固有の名前をつけようとするから。
- 2 子どもは、知らないものの名前を教えられた場合、固有の名前を持つのは動物だけであり、人工物は固有の名前を持たないと知っているので、教えられた名前を持つ対象が動物なのか人工物なのかをまず考えるから。
- 3 子どもは、新しいことばが既知のものに用いられた場合、違うことばは同じ意味を持たないという知識に加え、動物であれば固有名詞だが、人工物の場合は固有名詞とはならないと知ったうえでそのことばの意味を考えるから。
- 4 子どもは、新しいことばが既知のものに用いられた場合、動物であれば固有の名前を持つが、人工物は持たないという知識に加え、大人にはない自由な発想で周囲の対象をとらえてそのことばの意味を考えることができるから。

設問は、裏面に続きます。

問五 次の文章は、今井むつみ氏の『ことばの発達の謎を解く』の一節である。本文の内容を踏まえてこれを読み、外国語学習についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

大人が外国語を学習する時でも、外国語での意味のシステムをあらかじめ先に学ぶことはできません。子どもが母語を学ぶ時と同じように、単語を一つ一つ学びつつ、同時にシステムを部分的に少しずつ学び、単語の数を増やす。つまりシステムの構造を徐々に理解しながらシステムを創り上げつつ、単語の意味とシステムの理解の両方を少しずつ修正していくというプロセスが必要なのです。しかし、外国語の単語の意味を調べるために辞書を引いた時に辞書が挙げている母語と「対応する」外国語の単語は、母語の単語と同じ境界を持つという思い込みがあり、そのため、いったん母語に対応する語を覚えてしまうと、外国語では区別されるべきことばをなかなか覚えることができません。

(今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』による)

1 外国語学習では、大人は母語のシステムがあらかじめできあがっているので、外国語の単語を一つずつ母語に対応させて覚えるが、子どもは母語とは異なる単語の意味を他のことばとの関係とともに知りながら、新たに語彙のシステムを創り上げている。

2 外国語学習では、単語の意味として母語との対応関係を知るだけではなく、その外国語と関係する母語のことばの意味も考え、母語の語彙を豊かにしながら同時にそれに対応する多くの単語を獲得し、外国語の膨大な数のシステムを創ることが必要である。

3 外国語学習では、単語の意味を一つずつ母語に対応させて覚えるのではなく、似た単語との意味の境界を確かめつつ単語同士の関係を理解し、時には学んだ単語の意味を修正しながら、母語とは異なる語彙のシステムの構造を新たに学ぶことが求められる。

4 外国語学習では、単語が指す対象の一つを母語に対応させて覚えるのではなく、その単語と既知の対象との関係を修正することで母語とは異なる意味を確認しながら、一つ一つ蓄積しつつ膨大な数の単語を新たなシステムとして構築しなければならぬ。

問六 「枚挙にいとまがない」(——線部オ)の本文中の意味として最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 わかりやすい例がそろっているということ。
- 2 把握することができないほど、忙しいということ。
- 3 数えきることができないほど、非常に多いということ。
- 4 数量が十分にあり、一つ一つ数え上げられるということ。

三 アルバイト先のファミリーレストランで客に絡まれていた笹塚朱美を邦彦が助けたことをきっかけに、二人はつき合い始めた。本文はそれから一年半経った後の場面である。次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

依然として、邦彦は、ほかの男に比べると、親しみやすく魅力的には思う。いい人だとも感じる。

「どうしたの、具合悪い？ 大丈夫？」と邦彦が声をかけてきた。馴染みの喫茶店で向かい合っている。

「大丈夫」と彼女は答える。が、大丈夫？ と問われれば、大半の人は、「大丈夫」とほとんど反射的に返事をするものだと、邦彦は気づいていない。

心配の声をかけ、相手がそれに応答すれば、それで済みだと思うのだろう。

「教育実習はどうなの？ 最近の高校生は生意気じゃないの」と彼が訊ねた。

「そんなに変わらないよ。いつの時代も、むすつとしているし、幼いけれど大人びているし」

なるほどね、と答えた後でまた邦彦が話をはじめた。「今度、同期が結婚するんだけど、披露宴はやらないらしいんだ。だから、会社でサプライズパーティをやるうと思っ

「それって」

「俺が新郎を連れていってね。居酒屋で二人で飲むと見せかけて、実はみんなが待ち構えているんだ。結婚祝いのパーティを開催する」

「へえ」笹塚朱美は思った以上に、自分の相槌が冷たく響くことに驚いた。

「いまいちな反応だね」邦彦の目が少し強張る。頬が引き攣った。しまったと感じ、いつもであればそこで、彼の話に合わせるためにギアを変更するのだが、なぜかそうする気持ちにはなれず、沼から足を引き抜くような思いで、「そういうのって、サプ

ライズする側の満足じゃないのかな」と言った。

「え？」

「みんなで、誰かを驚かす準備をして、わいわいやるのって、やっぱり楽しいでしょ。もちろん相手を喜ばせたい、という気持ちもあるだろうけど、仕掛ける側のほうが楽しんでいるんじゃないのかな。驚かされるほうにだって、いろいろ事情はあるだろうし。嬉しいばかりではないと思う」

「ああ、なるほど」邦彦の顔が曇る。思わぬところで鼻を弾かれたような気分なのだろう。むっとしていた。「でも、やっぱり、喜ぶと思うけどな」

「喜んでもらえると思ひ込んでいる時点で、ちょっと傲慢かもしれないよ」笹塚朱美は言った。引っ込みがつかなくなり、感情に任せて言葉が続けるのではなく、今このタイミングで沼から出な

くてはならない、と必死だった。強く足を引き抜き、一歩二歩と進み、脱け出るべきだ、と。

邦彦は困った表情になり、腕を組む。泣き出しそうにも、怒る寸前にも見える。それから少しして、「そんなにきつく言われると、ちょっと悲しいけれど」とぼそりと言う。さらに気の利いた言葉を続け、いつもの通り、笑い話に変えようとしていた。

笹塚朱美は、きつとわたしはこの立場がつらいのだろう、と気づきはじめた。

自分が年下のせいもあるかもしれないが、いつも彼が自分を驚かせ、楽しませる立場で、自分はそれを受け止めるだけ、といった関係性が苦痛になっている。

別に逆もいいじゃないか、と邦彦が言うのも想像できた。「俺を驚かせてくれても、別にいいんだよ」。

ただきつと無理だ、と彼女は分かってもいる。驚かせるアイデアが浮かばないこともあるが、彼はきつと、驚かされても喜ばないだろうとも分かるからだ。彼はいつも、「誰かに与える」ことが喜びなのに違いない。

彼女は自分の中のもやもやとした不満を、なるべく感情的にならぬように彼にぶつけた。邦彦は時折、間を取るように返事をするものの、反論はしなかった。ぐっところえているのが伝わってくる。

「あの、ファミリーレストランの時、クレームを言われているわ

たしを助けてくれたでしょ」

「あのおかげで、親しくなれた」

「おかげで、つて言い方がちょっと」

邦彦は顔を歪め、「それは言葉の綾というか、他意はないんだよ」と言った。「それに、あの時は助かっただろ」

「そりゃそうなんだけれど」自分でも何が言いたいのか、何が納得いかないのか、分からないでいた。人のために何かをしたい、という思いやサービス精神は間違っていない。それは理解できる。一方で、そういった態度に傲慢さを感じている自分もいた。

「たぶん、きつとわたしにもまた、どつきりすることを仕掛けてくるん

でしょ。会うたびに、それを疑って、構えてしまうの」「どういう意味？」「分からないけれど」「俺が、サプライズでプロポーズをするとか？」「具体的なことではないけれど」

「そんなことまで先回りして考えて、しかも勝手に怒られても、俺はどうすればいいんだよ」

さすがに邦彦も苛立ちを浮かべ、語調も強くなりはじめる。店内は混んでいるわけではなかったが、少し視線も集まってくる。

どうすれば良いのか、と途方に暮れ、笹塚朱美は泣き出す。

（伊坂幸太郎「ルックスライク」による）

三 の設問

問一 「『どうしたの、具合悪い？ 大丈夫？』」（——線部ア）

とあるが、このように述べる邦彦を朱美はどのように受け止めているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 邦彦は親しみやすく魅力的で、自分のことを心から心配して声をかけてくれたのだと分かつてはいるが、その反面、声をかけたことで満足してしまうので、返事には特に注意を向けることのない、薄情な人だと思っている。

2 邦彦は親しみやすく魅力的で、相手を心配して何かしたいと気遣いを示していると分かつてはいるが、返事があればそれで満足し、そのまま言葉通りに受け取って簡単に納得してしまう人だと思っている。

3 邦彦は魅力的で親しみやすい人柄であるが、実際は相手を気遣うふりをしているだけで、声をかけてきたのも表面的なポーズにすぎず、返事をしたところで邦彦は聞いていないので、自分勝手な人だと思っている。

4 邦彦は親しみやすく魅力的で、心から心配して声をかけてくれていることが分かっているので、その心遣いは嬉しく感じるが、その度に返事をするのが面倒であるという相手の気持ちには気づかない人だと思っている。

問二 「『そういうのって、サプライズする側の満足じゃないのかな』」（——線部イ）とあるが、この時の朱美の心情の説明

として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 邦彦の計画は、仕掛ける側の楽しみにすぎないかもしれないという可能性を考慮しておらず、驚かされる相手の事情を考慮していないことに反感を覚え、冷ややかに思っている。

2 邦彦の計画は、相手を驚かせて楽しませたいという気持ちから生まれたものではなく、自己満足のようなもので、いつものように素直に邦彦の考えを認めることができなくて困惑している。

3 邦彦の計画は、仕掛ける側である自分たちだけが楽しみたいというもので、驚かされる側は嬉しくないのが分かっているのに、それを楽しそうに語る邦彦を不快に思っている。

4 邦彦の計画は、相手を驚かせて喜ばせたいという善意によるものであり、その気持ちには賛同できるものの、驚かされる相手が喜ぶとは限らないのではないかと不安を感じている。

問三 「むっとしていた」（——線部ウ）とあるが、この時の朱美の考える邦彦の気持ちはどのようなのですか。その説明

として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 自分の計画に朱美は賛同してくれると思い、反論されることを予想していなかったので驚いたが、朱美の意見のほうに分があることは認めざるを得ないので何も言えずにいる。

2 相手を楽しませるための計画を自己満足にすぎないと朱美に指摘されたので、一瞬腹を立てたが、朱美の意見はもつともだと思い直し、自分の浅はかさに落ち込んでいる。

3 いつも通り、自分の計画に同意してくれるだろうと思っていた朱美が反論してきたことが予想外で焦ってしまい、冷静なふりをしているものの、内心では怒りを感じている。

4 自分の計画に朱美も賛同してくれるだろうと思っていたのに、予想に反して朱美が反論してきたので動揺し、得意になっていたところに水を差されたため、不機嫌になっている。

問四 「自分の中のもやもやとした不満」（——線部エ）とある

が、この時の朱美の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 驚かせる邦彦と驚かされる自分という関係をつらく思い、せめて邦彦を驚かせるアイデアでも浮かべば今の関係性も改善できるのと思うが、一向にアイデアが浮かんでこないで落胆している。

2 邦彦が主導権をもち、年下の自分が邦彦に従うだけという関係に違和感を覚えるようになったが、邦彦に逆らうような言葉を口にすることができず、強く出られない自分の弱さにくんざりしている。

3 誰かに与えることが喜びである邦彦と、それを受け止めるだけの自分という関係がなくなったことに気づいたが、邦彦との現状をどうすることもできないので、満たされない気持ちでいる。

4 以前から邦彦との関係の中で満たされていない自分を漠然と感じていだが、それがはつきりと自覚されて邦彦と一緒に過ごすことが苦痛に感じられてしまったため、自分たちの将来に絶望している。

設問は、裏面に続きます。

問五 「さすがに邦彦も苛立ちを浮かべ、語調も強くなりはじめ

る」(——線部オ)とあるが、この時の邦彦の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 朱美の言葉で險悪になりそうなところをぐっとこらえてきたのに、どうなるか分からない先のことまで考えて勝手に怒る朱美に対して、穏便に対応することができなくなり、とうとう腹を立てはじめている。
- 2 朱美を助けて親しくなりつき合うことになったが、結婚するつもりなどなかったので、朱美が先走ってプロポーズをせかしてくることが予想外で驚くと同時に、そこまで望む朱美にあきれている。
- 3 自分の考えを否定してくる朱美に対して、自分は年上だからと我慢してきたが、朱美が将来のことを勝手に想像して不安がっていることはやはり滑稽であり、もうこれ以上相手をするのは限界だと感じている。
- 4 わがままな言葉を口にする朱美に対して、寛容な態度で接してきたのに、そんな自分の気持ちを顧みることなく、自分勝手に言いたいことを言い続ける朱美にいい加減我慢がならず、幻滅している。

問六 「れれ」(——線部)と同じ文法的意味の単語を含む文と

して適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 お客様がようやくわが社へ来られた。
- 2 先生から大会の応援の言葉をかけられる。
- 3 苦手な野菜でも調理次第では食べられる。
- 4 小学校であったことが思い出される。

【四】 次の文章は『宇治拾遺物語』の一節である。次の文章を読
んで、後の設問に答えなさい。

ある時この川に男一人流れて、すでに死なんとす。「我を人助
けよ」と叫ぶに、この鹿かぜき、この叫ぶ声を聞きて、悲しみに堪へず
して、川を泳ぎ寄りて、この男を助けてけり。男、命の生きぬる
事を悦よろこびて、手を摺すりて鹿に向かひて曰いはく、「何事アをもちてか、
恩を報たまひ奉るべき」といふ。鹿の曰く、「何事をもちてか恩をば
報はん。ただこの山に我ありといふ事を、ゆめゆめ人に語るべか
らず。我が身の色、五色なり。人知イりなば、皮を取らんとて、必
ず殺されなん。この事を恐るるによりて、かかる深山みやまに隠れて、
敢あへて人に知られず。然るを、汝なんぢが叫ぶ声を悲しみて、身の行く
末を忘れて、助けつるなり」といふ時に、男、「これまことに理ことわり
なり。さらに漏らす事あるまじ」と、返す返す契ちぎりて去りぬ。も
との里に帰りて、月日を送れども、さらに人に語らず。

四 の設問

問一 ――線部A―Bの動作主の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|---|-----|-----|
| 1 | A 鹿 | B 男 |
| 2 | A 鹿 | B 鹿 |
| 3 | A 男 | B 鹿 |
| 4 | A 男 | B 男 |

問二 「何事をもちてか、この恩を報ひ奉るべき」(――線部ア)とありますが、ここで述べられた男の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 どんなことでも必ずすると言って、何とか鹿にこの場を見逃してもらおうとする気持ち。
- 2 鹿はなぜ危険を冒してまで自分の命を助けてくれたのか、その理由を知りたいという気持ち。
- 3 自分の命を助けてくれた鹿にとっても感謝し、何としてもお礼をしたいという気持ち。

- 4 どんなことをしても自分は鹿の恩に報いることはできそうもないと感じ、申し訳ないと思う気持ち。

問三 「人知りなば、皮を取らんとて、必ず殺されなん」(――線部イ)とあるが、ここで述べられた鹿の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分を殺して皮を取ろうと考える者は、今まで必ず殺されてきたのだということを伝えて男を脅そうとする気持ち。
- 2 五色の鹿がいることを知られたならば、その皮を求める者に自分はきつと殺されてしまうであろうと恐れる気持ち。
- 3 自分の皮を取ることができないと分かったら、そのことに腹を立てた人間が自分を殺しに来るだろうと警戒する気持ち。
- 4 五色の皮のために自分を捕えようとして山に入ってくる人間を、もうこれ以上殺したくないのだという切実な気持ち。

問四 「さらに漏らす事あるまじ」(――線部ウ)とあるが、どういうことをいっていますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 鹿が自分に他言を禁じた理由はもつともなことであるので、自分がこの五色の鹿に出会ったことは決して他の人に話すまいと固く誓うということ。
- 2 自分が鹿に命を助けられたことは事実であり感謝しているが、そのことは誰にも知られたくないので、他の人には話さないと約束するということ。
- 3 人目につかぬように隠れ暮らしている鹿が、自分をやむを得ず助けたうえにその話を他に広めるなどということはあるまいと考えているということ。
- 4 五色の鹿に出会ったことは非常に不思議な出来事であり、人に話したところで誰かがその話を信じて鹿をしとめに来ることはないだろうということ。

問五 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 川で溺れた男の助けを呼ぶ声を聞いた鹿は、溺れ死んでしまった男を気の毒に思い、生き返らせてやった。
- 2 鹿は男に対して命を助けてやった礼を要求したが、男はその恩に報いるのに十分な礼をすることができなかった。
- 3 鹿は、自分の体の色が五色であることを知った男が、自分を殺して皮を取ろうとすることを恐れて隠れてしまった。
- 4 鹿に命を救われた男は、山から帰還してからも、体の色が五色の鹿のことを決して他人に話すことはなかった。

問六 芥川龍之介は、「宇治拾遺物語」を題材として、『地獄変』という小説を発表しました。芥川龍之介の作品を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|----|
| 1 | こころ | 2 | 羅生門 | 3 | 高瀬舟 | 4 | 雪国 |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|----|



↓ここにシールを貼ってください↓

受	験	番	号

2024年度 須磨学園夙川高等学校 入学試験解答用紙 国語

※	※	※	※	※	※
問六	問五	問四	問三	問二	問一

(※の欄には、何も記入してはいけません)

二

※	※	※	※	※	※
問六	問五	問四	問三	問二	問一

(※の欄には、何も記入してはいけません)

一

※

※

二

※	※	※	※	※	※
問六	問五	問四	問三	問二	問一

(※の欄には、何も記入してはいけません)

四

※	※	※	※	※	※
問六	問五	問四	問三	問二	問一

(※の欄には、何も記入してはいけません)

三



2024SYUKS0110

※

※

※

